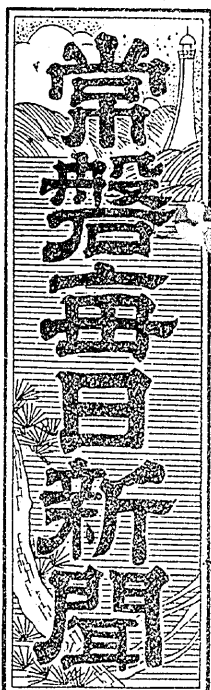


刊夕日七月七



定額一ヶ月金五拾圓 郵費五圓
廣告費五拾圓 印刷費五拾圓
日曜祭日の翌日休刊
日曜祭日の翌日休刊
發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞社

史談因果は巡る

眞 繼 雲 山

英雄といひ豪傑といふも半はその實力であるが、他の半は時運による。源の義経が破竹の勢ひを以て一の谷から屋敷・壇の浦と、息をもたげせず平家を追討したあの手並があるなら頼朝を逆討するは朝飯前五大州をすら容易に征服し得られさうなものであつたらうにも思はれぬではないが、さて後白河法皇に頼朝追討の院旨を苦請し、これを手にしては見たが事、概ね志と違ひ、勢ひを鎮西に避けんとして大物浦に漂蕩し、吉野に分け入りては悪僧輩に乗ぜられるといふ始末で、六十餘州に身を容るべき寸土ともなかつた民心弱きを去りて權勢利録に就くといふは昔も今もその揆を一にする。

その子泰衡しばらく脚疑したるも、遂に亡父の遺命にそむき、頼朝の命を含みて衣川の館に義経を討つて義経妻子と共に刺殺す、時に年三十有一歳。名利に眼くらみたる者よ斯うした泰衡の無情な仕打に幸福の訪れやう筈はなかつた。泰衡は義経の首を鎌倉に送り、過分の恩賞來るや遅しと待望したが、豫期は全く裏切られ、頼朝却つてその脚疑して速かに討たざりしを辭となし自ら軍を進めて泰衡を討つ、泰衡敗れて窮窮して降らんとし、死一等を許されんことを乞ふたがそれを許さずやうな頼朝ではなかつた。

そこで泰衡、身を以て蝦夷に走らんとし、北上して家臣河田次郎の家に投ず、次郎また叛いて泰衡を討ち首を頼朝に献じて、賞を待つ。頼朝次郎を捕へ、責めて曰く、汝譜第の恩に背き舊主を討つ大逆無道なりとあつて次郎を斬る。斯うして因果は巡りめぐつて終末を告げた。私たちは、善果を望んで善因を修するほどに巧利的であつてはならないが、しかも懐ろに入つた窮鳥を焼いて食うやうな無血虫漢に福榮の訪れやう道理なきことを知らねばならぬ。舊主を討つた泰衡の最後は、同じ筆法で舊臣にうたれた。河田次郎も亦た一刀の下に血煙となつた。どれもこれも因果の小事であつた。彼れ等の及びなき地下の悔後を私たちは今目前の深誠と知るべしである。斯くても小車は尙ほ盡きぬ舊主義朝を浴室に刺した長田忠宗は後に頼朝のために晒らし首となり、僧徒寛を鬼界ヶ島に怨霊と化せしめた平の清盛は猩紅熱で悶死し、枝も葉も我れから進んで刈り盡した頼朝は、平家の怨みで落馬して死んだ果てが、源家三代にして亡びたといふ循環律は、何れも因果應報の佛説を裏書して餘りある。現代は金と名譽に飢ゑた輕薄無信の世態であること、我れ人共に異存はないが、ナニ、それは今に始まつた話ではない。權勢利録に阿附して恥を恥とも思はざるは、昔から人間の持つて生れた煩惱に外ならぬ。たゞ、義経の悲壯な最後に至りては、讀書子の腸を斷つ一片の哀史であり、殊に流離落魄して吉野山の雪中

に踏み迷ふに至るまで、花のあした、月の夕べ、大物の荒波の中にも姿静を伴ふてわたといふ情熱の半面は、彼れが一介の武弁でな

金銀 高價買入ます

プラチナ

根本時計店

食堂部近日開店

福榮亭

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

季節御料理

- 柳川一人前 金二十五錢
- うな井 金三十五錢
- 蒲焼 金五十五錢

魚清

例年の通り 氷水 始めました

多少に拘ず御用命御引立の程願上ます

出前迅速

藤寅

電話一四一番

夏服

軽くサラリとした新製品を豊富に取揃へました。

- シルクポーラー三揃... ¥ 17.00
- シルクポーラー上下... ¥ 12.00
- トルピカル上下... ¥ 7.50
- 黒セル上衣... ¥ 3.00
- 純毛白セルズボン... ¥ 2.50
- 白直衣... ¥ 1.20

なかや洋服店 平電二〇三

度量衡、計量器、吸入器、酸素吸入器

関内薬局

電話四〇番

各濱の活況!

愈よ鯉群來る

小名濱に二千餘貫の鯉

豊間や四倉も小魚豊漁

夏の味覺極樂

強雨上りのシケの爲め不漁に悩んで居た石城郡下各濱鯉漁船は最近曇天ながら

海上は比較的穏やかであり殊に小名濱百五十哩の沖に鯉群來の吉報により

本郡は勿論大津、平潟、石巻、鹽釜方面の漁船相次いで小名濱に殺到し各漁船何れも小名濱に水揚する向多

昨日來既に二千餘貫の鯉を小名濱に水揚して六七割の相場を呼んで居る折柄本日豊間の大敷網に三百餘貫の鯉の

漁獲を見て魚形の大

小により二割から六割の相場で飛ぶ様に取引され四倉には鯉の豊漁を見る等久方振りて郡下各濱は蘇生した思ひに活氣を呈して來たと

小麥の増殖に

協議會を開く

五ヶ年計劃で全國小麥の増殖を圖る事となつた政府案に基き石城郡農會では是れが前提として先づ地元農事協議會を來る十五日團體事務所樓上に開き郡駐在農業技術員穀物検査支所員神谷農事試験分場員等二十五名が參集小麥増殖に關する縣指令に依る本郡の具體的増殖案を建てる事になつた

午前九時より同署樓上に於いて開かれ十一月より廿日迄の九日間は實地調査を開始すると

川前の

馬市況

前回より

幾分高値

土地異動

實地の調査

平稅務署管内に於ける土地異動の調査委員會は昨日

石城郡產馬畜産組合が去る四、五、六の三日間川前村にて行つた馬驪市場は出場頭數百三十九頭で賣上金五千五百九十八圓を得たが取

正木校長出張

磐城高等女學校校長正木貞二郎氏は來る九日安積高等女學校に於て開かれる縣下女子中等學校體育大會理事會に出席の爲め今朝平發八時五分にて出張すると

平商野球部を

中山氏が指導

平商業學校野球部にては來る十二日より一週間元福島高商の名捕手たりし中山忠雄氏をコーチアとして招き城山湯殿山に合宿の上猛練習をなすと

兒童競技は

今秋十月二日開催

既報石城郡第三區小學校兒童競技委員會は昨日午後一時より平第一小學校に於て開かれたが出席者十六人にて今秋十月二日を期し磐中グラウンドに兒童競技會を開催する事となり參加校の胸背に附する番號左の如くにて係員と共に決定した

- 1 内郷一 2 内郷三 3 小川 4 好間尋高 5 好間尋 6 平一 7 赤井一 8 内郷尋高 9 内郷二 10 赤井二 11 平二 12 川前 13 飯野 14 桶賣 15 平三 16 平窪
- 係員(走技審判)佐藤信義 横田瀧藏 班目喜義 西巻清富 林又左工門 鈴木愛三 志賀爲彦(監察員)石田伸六郎 竹内忠 根本貞一 渡邊政樹

麗しく賑やかに

けふの「花祭り」

花を以て埋られた講堂に於て花祭を催したが來賓多數ありプログラムは左の如くにて頗る盛會を極めたが終つて尋常科第四學生以下の生徒等は既記の如く手に手に花束を持つて各病院入院患者百三十六名を慰むる爲め歴訪した

平第二小學校にては本日午前八時より

- (尋六ノ三)奮闘(同二ノ二)蝶々のおうら(同五ノ二)七夕(同二ノ三)かへる、かたつむり(同四ノ二)花火(同三ノ二)おみやげ三つ、雨(高一ノ一)七日間のお説教(尋五ノ一)濱のつばめ(同二ノ二)オルガン(同六ノ二)曉景(同二ノ一)キューピーさん、ママゴト(同三ノ一)日本三景(高一ノ三)森の小鳥(尋四ノ一)白い花と黒い花(同二ノ四)おにごつこ(同六ノ一)けしの花(同二ノ三)只の太郎とかめの子(同二ノ二)おじき機織(高一ノ二)海の朝(同二ノ一)母子草(尋五ノ三)誰がした(同二ノ四)かいぐり、ママゴト(同三ノ三)なぜでせう(同三ノ四)カッポ〜兵隊(同二ノ三)五いちいさん、ひばり(同四ノ三)マリーのきてん(高二ノ二)忠臣(尋六ノ一)月の沙漠

青年指導

講習始る

既報石城郡下青年訓練所指導員講習會は本日午前八時より磐中に於て各小學校校長其他三十餘名出席磐中八谷平商駒場兩教官指導の下に開催したが明日は平商に於て開催すると

水泳競技

来る十日に

磐城中學校水泳部にては來る十日午後一時より古河炭礦へ遠征し同礦プールに於

△四丁目一九鈴木安吉氏長男保

△回死 亡

△鍛冶町二二大野庄二(三ツ)

宗正らひた

美味! 芳醇!

山崎合名會社 電話一〇番

印刷御用命は總て 印刷日每警常 株式会社 電話三六〇番

上田外科醫院 平町南町 電話二一九番

罰金の工面がつかず

刑務所入り志願

平検事局の罰金未納額 實に二千六百圓に達す

深刻な此世相

分(平驛着、同四時卅四分)

既報平検事局に於ける現在の罰金未納は三千六百餘圓にて人員二百名に達し夫々呼出状を發して之が整理を急いで居るが多くは農夫にて現在の不況に工面がつかず中には止むなく刑務所入を志願する者もあり昨日も其一人である石城郡内郷村大字宮澤三番地小野長松(四)を留置場に收容したが同人は昨年六月中賭博で罰金五十圓に處された者である

警女同窓役員會

警城高等女學校同窓會役員會は本日午後二時半より母校に於て開き總集會の日取其他本年度の事業に就て協議したと

波立薬師に

臨時列車

薬師裏假ホーム迄 第一第二の丑にも

平驛では双葉郡久之濱町の波立薬師の祭日に當る十八日には久之濱四倉間同業師裏に假ホームを作り臨時列車を運轉する事となつたが第一丑の日の七月廿七日及第二丑の日の八月八日兩日にも海水浴客の便宜を圖り

同様臨時列車を運轉する由時間は左の如くである

- ▼平發 午前八時二分 (渡立薬師裏假ホーム着)
- 同八時廿五分頃
- ▼平發 午前十時三分 (同上十時廿六分頃)
- ▼四倉發 午後四時十六分

雇人に費消されて

主人公がルンペン

郷里に引上げる旅費に窮し 仙臺から徒歩で……

滋賀縣伊香郡木ノ本町生れ大下茂(四)は本日平町役場に旅費の貸與方を願出たが役場員が事情を聞くと同人は本年四月迄北海道小樽市でクリーニング商を営んで居たが使用人の同縣人木村清藏(三)に三百圓餘を使ひ込まれて破産し去月十五日に郷里に引上ぐべく出發したが旅費に窮して去る二日仙臺より徒歩で來たものである

紛失物

警中で調査

警城中學校にては此の程全校生に對し今學期より去月未日迄の間に於ける紛失物の調査をなしたが總計數三百七十二に達し各學年別に

明日のラジオ

八日

報豫氣天

れはより今晩は西の風曇り
たりは小雨あり所
たりは南西の風晴
つたり

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間童話劇「七夕まつり」虹の會
- 後六、二〇 ロドモの新聞
- 村岡花子
- 後六、二五 カレントトピックス
- 後七、三〇 講演「王政復古の前後の話」淺野侯爵邸より中繼 侯爵淺野野長

招待「たぬきや」

- 後九、四〇 全國ニュース
- 氣象通報 番組豫告

明日の部

- 前九、一〇 料理献立「グランド」西瓜(冷菓)朝倉長吉
- 前一〇、三〇 家庭講座
- 後一〇、五〇 新日本音楽「出漁の唄」外 吉田泰山
- 鈴木皓山外八名
- 後二、〇〇 講演「儀式や集會の活花の配合に就いて」山田清雅
- 後六、〇〇 (子供の時間)童謡と唱歌 東京市内小

學校兒童

- 後六、二〇 コドモの新聞
- 村岡花子
- 後六、二五 カレントトピックス
- 後七、三〇 講演「ラヂオ氣象通報の利用」東北帝大教授理學博士中村左工門太郎
- 後八、〇〇 祭禮囃子解説 國幣中社伊須須美神社宮司渡邊慶次
- 後八、三〇 落語「東西夫婦」柳家金語樓
- 後九、〇〇 浪花節「柳田角之進」筑波雲

暴力行爲公判

既報石城郡泉村大字泉字小山六十五番地會社員佐藤權兵衛(三)及び同人方無職高藤吉(二)の兩名が去月二十八日午後七時頃同郡湯本町大字三國武田謙方に至り債權者鈴木啓造の依頼による貸金の催促を爲すに當り亂暴を働いた暴力行爲及び傷害事件の公判は昨日午後二時より平區裁判所に於て關口判事係り上田檢事立會の下に開廷され事實取調をなして閉廷次回公判期日は来る二十日午前九時である

休暇中の生徒監督

各學校が打合せを

平町在各學校の校外監督係協議會は来る十五日午後二時より平商業學校に於て開かれ今夏休中に於ける各學生の監督方法其他に就て打合せを行ふと

赤字づくめの

平驛運輸狀態

平驛去月中の運輸狀況は乗客は三萬五千八百人で前年同期に比較して四千三百五十八人の減、降客は三萬三千八百三十四人で昨年より四千八百九十六人を減じて居り、賃金一萬六千九百七十七圓五十錢は千三百三十七

夏祭り

矢の宮と水天宮

平町鍛冶町に鎮座せる水天宮神社の祭例は今の祭の兩日餘興等あつて盛大に行はれる又九十の兩日は内郷村御臺境の一の矢神社の祭典に當るので賑ひを豫想されて居る

平職業紹介所報告

回求人部 月五
△農夫 三十五才迄

- △女中 四十七才 尋二修 給料面談(茨城縣多賀郡某)
- △女中 十八才 尋卒 給料面談(好間村某)
- △外交員 三十五才 高卒 給料面談(平町某)
- △土工夫 三十一才 高卒 給料面談(平町某)
- △雜役 三十七才 高卒 給料面談(高久村某)
- △酒屋店員 十八才迄 高卒 給料面談(夏井村某)
- △兒守 十四才迄 尋卒 仕着小使(平町某)
- △回求職の部

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第九十五席 眞庭念流達人櫻井五助

林藏角一の對面

秋山要介は酒を飲みながら林藏に對ひ

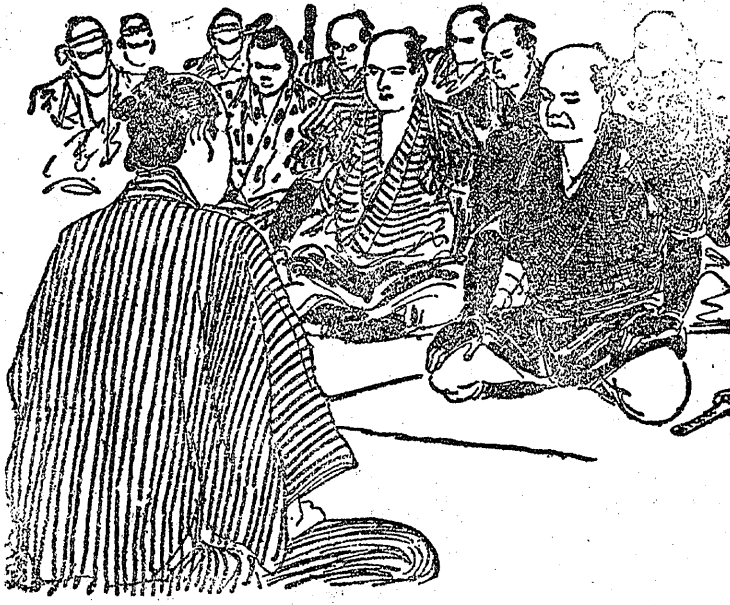
要「時に林藏、今貴様も聞く通りの始末で、上州甲州の俠客が喧嘩をいたす、さすれば双方に怪人も出来且はこの三日の賭場を目的に一年の生活を立る商人は頗る困難いたす、それで貴様は是れより岩手の角一の許へ參つて利害を説き、この喧嘩を貰つて來い、俺は藤岡の慶助を始め上州の俠客を説き付けて納めて來る又この喧嘩の原因は、先刻角一の子分が參つての話で存じて居らう、何とか辯舌を揮つて貰つて來い、貴様はこの喧嘩の仲人をいたせば男も上る、のみならず當所の商人は貴様の徳は終生忘れまい、茲は男を賣る大事な場所だ、然し甲州方で肯入れぬ時は命を保つて歸るナ死んで來い、卑怯な振舞をいたすな、サア早く行け」

林藏これを聞いて

林「承知いたしました、この喧嘩を貰つて參りませう」

要「ウン行け、貴様も武州では大層な親分であるが

關八州の俠客の中にはまだ立派な親分とは云はれぬ、それゆゑこの喧嘩の仲人をして男を上げる、俺は貴様が可愛く思ふゆゑこの大事の仲人を申付ける、死ぬ覺悟で行け」



林「承知いたしました、有難う存じます、死に參りませう、サア藤藏、周作一緒に行け」

立上がつた林藏子分を供にこの座敷を出ようとする

と秋山が
要「待て林藤、周作に藤藏を伴れて行くには及ばまい

死に行くんだ一人で行け」
林「へエ掛まりました、デハ先生行つて參ります」
要「命を惜むナ、死地に入つて生を得ると申す事があるぞ、身体を投げ出して談判いたせ」

林「判りました、然し先生この林藏が死ぬ時は對手にも血を吹かして見せませう」

要「其一言忘れるナ」
林「御念には及びません」

林藏は茲で男になるか但し佛になるかと云ふ大事な場合、和泉守兼定の鍛へた長脇差を腰にして岩手の角

寺院の大門内に集り今に藤岡の慶助が上州の俠客を率ひて押して來るか待つてゐる、一同抜刀でその物凄いな事今にも血の雨が降るかと思へた、スルと角一の子分が
○「親分お前さんにお目にかゝりたいと云つて武州入間郡の赤尾の林藏が參りました」
これを聞くと角一の隣にゐた廣澤の兵右衛門が
兵「林藏が來た、ウン宜い所で會つた、高萩の猪之松の敵だ」
と云ひながら出ようとする
角「ヤア待て、何ういふ用で來たかその用向を聞かす斬つたとあつては卑怯者と云はれるであらう、怨みは何時でも報す事が出来る、何で林藏が此處へ來たかその用向を一應聞いてやらう」
マア廣澤の、短氣な事をしなさんナ、林藏どんを此處へ通せ」
角一は急立つ兵右衛門を和めて林藏と會ふ事にした間もなく子分の案内でそれへ入つて參つた林藏、向ふを見ると、大地へ疊を敷きその上に坐してゐる、先づ親分とも思はれる者共數十人、其他子分がズツと並んでゐる
角「サア何うぞ此方へ來て下さい」
林「御免下さいまし」
脇差を提げてそれへ上つた、本來この脇差は柄を向ふに出して右に置くべきが法然、然し今日は角一の返

答に依つては斬死の覺悟、それゆゑズイと脇差を引付けて
林「初めましてお目に掛ります、わたくしは入間郡赤尾村の林藏と申します、どうぞお見知り置かれてお引立下さるやうお願い致します」
角「ハイ初めて會ひました甲州岩手村の角一でございます、これに居るは同國廣澤村の兵右衛門次は廣澤の藤兵衛、次は神興村の三右衛門、次は妙義の雷藏一々御挨拶いたすべきでございますが手前が成り代つて申し上げます」
と丁寧に會釋した。

運動靴は……
月星
品質は斯界の王
名入れ金具付きの
サービス
平田町
大塚運動具部
電話七七番

科人婦・科外
院醫坂井
町田町平
番九五五話電

胃腸病薬の王座を占むる純漢法薬
松前
家傳
靈効散(無効返)

ホントに北海道で出来た靈薬が着荷致しました。今迄のは福島市内で製薬したので兎角の批評がありました。今度のものは眞正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、惱病、心臓、痔疾の方は是非御試下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散も出来ました。

定價
試用分(八日分) 輕症用(廿日分)
重症用(四十五日)
平町古鍛冶町縣社ノ下
阿康藥舖
電話四四番

専門 内科一般
宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所
電話一八一番
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

東京市本郷駒込追分町
(茶代不用) 上野驛ヨリ(自動車約五分
電車約十五分)

一泊金一圓(食附但シ二食)

電話(小石川)三一六五番

銀駒込館